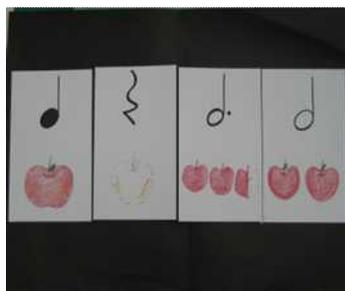


教材教具名 音符記号カードと楽譜

教科(音楽)

教材教具写真



教材教具の概略(ねらいと使い方) 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等

- 1 ねらい 鍵盤楽器(鍵盤ハーモニカ等)を使い、楽譜を見て簡単な曲を演奏することができる。
- 2 発達段階 実感的音楽リズム期(色の弁別、数詞、平仮名50音読める)
- 3 使い方 音の長さを理解するために、音符をリンゴにたとえて学習する。
ソ・ラ・シ・ド・レの音とその色に対応する青・紫・茶・水玉赤・水玉黄色をマッチングする。
楽譜にある音符の色を見て演奏する。また平仮名が読める子どもは、音符の下に書いてある階名を読んで演奏する。

児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等(次に利用する方のために)

「平仮名が読める・色の弁別」のどちらかができれば使いやすい教材であると思う。直接鍵盤に色付きシールやドレミシールを貼ったことにより、色や平仮名を見て自分で演奏ができるようになってきた。音符カードに関しては、音の長さを意識しながら演奏することはまだ難しいが、一緒にリズムを歌いながら演奏することに継続して取り組んでいる。